



大阪の東西交通アクセスを充実

緑が映える水辺に建ち並ぶ歴史的な建物と近代的な高層ビル。天下の台所と謳われた江戸時代から大阪の行政、経済、文化の一大中心地として栄えてきた中之島は、自然景観と歴史・文化、先進的な都市機能が調和する、まさに水都大阪のシンボルです。

平成20年10月19日に開業した中之島線は、京阪本線天満橋駅

から分岐して中之島西部までを、新しく誕生した4つの新駅で結んでいます。中之島線開業によって、大阪の東西交通アクセスは飛躍的に向上し、京都の都心部や洛北とも直結することで、関西全域の交通ネットワークを一層充実させました。

都市再生を促進し、地域の活性化に貢献

また、中之島線は中之島西部地区開発をはじめ、周辺の都市再生を促進し、大阪だけでなく関西全体の活性化の期待を担っています。中之島線開業と前後して誕生した複合都市開発「ほたるまち」や超高層マンション「N4.TOWER」などに加え、最先端のオフィスタワー3棟を建設する「関電・ダイビル共同開発」、朝日新聞大阪本社やフェスティバルホールなどを高さ200mのツインタワーに建て替える「朝日新聞グループ再開発」、「中之島駅」駅前にホテル、オフィス、商業店舗からなる複合高層ビルを建設する「京阪・大林

中之島共同開発」など、数多くのビッグプロジェクトが進行中です。

中之島線は利便性向上や観光促進効果とともに、まちの姿を大きく変える起爆剤としての役割が期待されるとして、大阪商工会議所主催の「大阪活力グランプリ2008」を受賞しました。当社では、そうした期待に応えるためにも、中之島線と沿線地域の魅力をより多くの人に伝え、観光や開発を促進していくことで、地域経済の活性化に一層の貢献をめざしていきます。

まちと水辺の一体感を実現する駅

文化とビジネスの中心地であり、水辺の美しい自然景観を持つ中之島の魅力が伝わるよう、中之島線ではこれまでにない先進的な駅と駅周辺の開発に取り組みました。

新しく誕生した4つの駅は、「水都大阪のゲートステーションの構築 -水辺への導入空間-」をデザインテーマに、すべてのコンコースに「木(無垢)」や「ガラス」を主な素材として採用しています。「木(無垢)」は公園の木々や街路樹を表現するのに加え「和」の感覚や「大人の街」を、「ガラス」は川面を流れる「水」を象徴する素材として使用しています。

また、駅の出入り口は利用客をまちとつなぐ重要な部分。「なにわ橋駅」は建築家・安藤忠雄氏による芸術性を高めたデザイン、他の3つの駅は木(無垢)とガラスをメイン素材に日本の伝統的な格子を現代的にデザインしました。

それぞれ個性的でデザイン性の高い4つの駅と駅周辺の開発は、「駅をまちづくりの核として、水の都大阪における水辺の一体感を実現する取り組み」として、高く評価され、国土交通省主催の日本鉄道賞で「駅・まち・水辺の一体計画賞」(表彰選考委員会による特別表彰)を受賞しました。

